



西日本新聞社 × 『ポリネコ！』 による DX対応型メディア企業と地域社会の実現

-特許技術に基づく双方向学習型UXによる
地域ビジョン・信頼構築を実現する新しいコミュニケーション事業-

2021年6月30日

株式会社ハンマーバード 代表
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
岩田 崇



takashi@hammerbird.jp

東京都品川区荏原6-2-5-5F

Story

1220文字、3分で判る提案概要 1/4

本提案は、西日本新聞様が誇る”調査・取材力”と”信用力”に、弊社の『ポリネコ！』の独自機能が連携（×掛ける）することで、人と人の意思を繋ぐ新しいUX（ユーザー体験）を提供し、地域の信頼構築、ビジョン構築と共有に対応する世界初のDX対応メディア企業を実現する提案です。

具体的には、西日本新聞の記事と『ポリネコ！』の連携で、購読者約50万人を対象に『ポリネコ！』を活用した輿論調査を実施。人々の現状認識、地域の困りごとなどを引き出し、課題をマップや色などの形で可視化しながら、広域のヴィジョンを確立します。

この参画できる輿論調査を世界初の新聞メディアの新しい可能性＝読んだ先に社会参画できるUX（ユーザー体験）として発表します。①_{p8}

Story

1220文字、3分で判る提案概要 2/4

この輿論調査から、県や市、町ごとのデータとともに、各自治体のコミュニケーションがどの程度機能しているか、防災対応や地域課題の理解がどの程度等も含め、住民視点で浮かび上がらせることから、自治体コミュニケーションが各地で機能不全を起こしていることを社会課題として提起します。

ヴィジョン（理想）と現実の差が課題となります。

この課題を解消するプロジェクトとして西日本新聞社の新事業として自治体版『ポリネコ！』を提供し、各自治体のコミュニケーションを各種調査、広報・公聴を再構築する形で対応できるようにします。②_{P8}

同時に、西日本新聞社社内の約700名の方々を対象にした社内向け『ポリネコ！』を実施することで、社内の課題共有とヴィジョン確立

Story

1220文字、 3 分で判る提案概要 3/4

を行い、その成果を発表するとともに、自社で効果を確認した社内コミュニケーションツール（HRテック）のサービスとして自治体や九州の各企業に、西日本新聞社の新事業として提供することを発表します。③_{p8}

輿論調査や自治体での展開のデータを積み重ねることで、ネットワーク効果が生まれ、西日本新聞のエリアで暮らす人々を対象にしたマーケティングネットワークが確立します。起業や事業継承を行いたい人が地域のニーズや継承者を見つけることができたり、企業が地域に根ざした市場調査を行うニーズに対応できるので、西日本新聞社の新サービスとなります。④_{p8}

それぞれの事業は、取材や調査したことを記事、設問化し、それを

Story

1220文字、 3 分で判る提案概要 4/4

人々に問いかけ、その結果から人と人、人と自治体、人と企業をつなぎ、信頼を構築する取り組みという意味で本質的に同じです。そして、新聞社という公共性が高く、信頼度も高い企業であるからこそ機能する事業です。

さらに、西日本新聞社様が人と人をデータやファクトを踏まえた意思の元につなぎ、信頼を構築する事業を他社に先駆けて行うことは、各地の新聞社に、ノウハウ提供、コンサルテーションを行う事業ができるようになることを意味します。⑤_{p8}

創刊145年を迎える西日本新聞は地域課題に応えることで発展してきました。『西日本新聞様×ポリネコ！』は、新しいジャーナリズムと地域づくりを高い次元できるDX対応型メディア企業-西日本新聞のエンジンとなります。

この課題認識にお応えできます。

今、新聞社は大きな変革期を迎えています。

デジタル社会の中でどうやって信頼できる情報を届けるのか。

目まぐるしい技術の進化を取り込んだ

新たなジャーナリズムの在り方を摸索しています。



株式会社 西日本新聞社
代表取締役社長 柴田建哉様

どうやって？

この連携によって「新しいジャーナリズム」
を世界に先駆け具現化できます。



西日本新聞社

調査・取材力

信用力



ポリネコ!

信頼構築力/機能

データやファクトを
踏まえた意思を集め
相互参照プロセスで
最適解、納得解を
確立する特許に基づく
コミュニケーション



「地域づくり」を実現する
「新しいジャーナリズム」
を提供する
世界初の
DX対応メディア

何ができるか？

この5つの事業展開が可能になります。

「地域づくり」を実現する
「新しいジャーナリズム」
を提供する
世界初の
DX対応メディア

- ① 新聞メディアの新しいユーザー体験
(ポリネコ型輿論調査による社会参加)
- ② 自治体コミュニケーション
「広報・公聴/新しい住民参加」
P68よりpdfを参照いただけます
- ③ 組織内の対話、ビジョン共有を実現する
コミュニケーション「HRテック」
P62参照
- ④ 人と人を繋ぐマーケティング/サーベイ
ネットワーク事業
- ⑤ 各地の新聞社へのソリューション展開
コンサルテーション事業

どんなニーズに応えるか？

この1+5つのニーズに応えます。



西日本新聞社 様

この変革期に、
「地域づくり」を実現する
「新しいジャーナリズム」
を確立したい。→できる！



新聞メディアの新しいユーザー体験
(ポリネコ型輿論調査による社会参加)

① 購読者

新聞を読んで
社会・地域を良くしたい
関わりたい→**できます！**

自治体コミュニケーション
「広報・公聴/新しい住民参加」

② 地方自治体

住民ともっと相互理解が
できる広報・公聴が
必要だ。→**できます！**

組織内の対話、ビジョン共有を実現する
コミュニケーション「HRテック」

③ 企業/地方自治体

組織内の対話、信頼構築に
つながるコミュニケーション
が欲しい→**できます！**

人と人を繋ぐマーケティング/サーベイ
ネットワーク事業

④ 地域の人々

自分以外の人々の
考えがもっと判れば
協力しあえる

各地の新聞社へのソリューション展開
コンサルティング事業

⑤ 新聞社、メディア企業

地域メディアとして
次の戦略的アプローチが
不可欠

売上の見込みは？

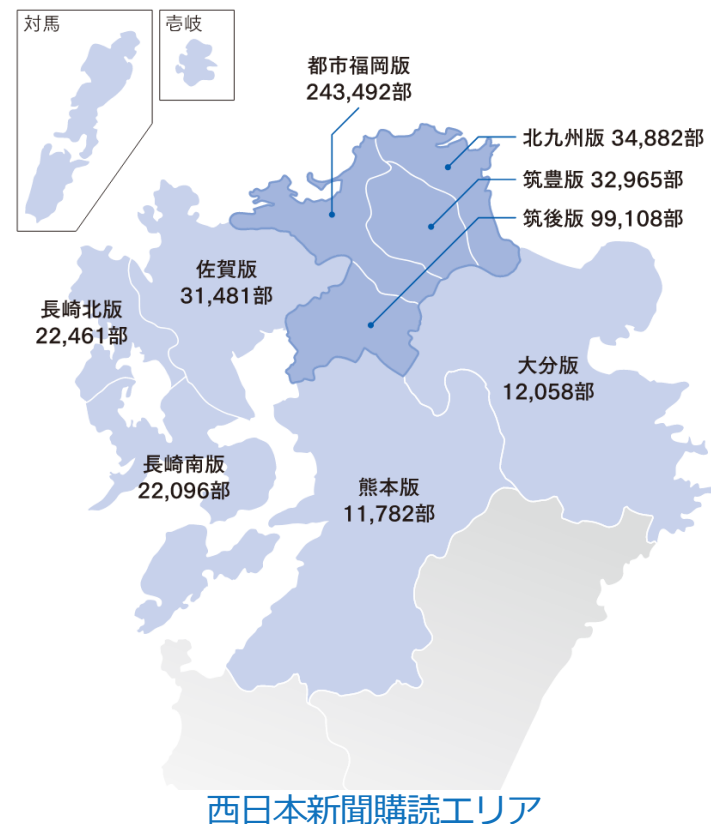
とりあえずは、このくらいです。

② 自治体コミュニケーション
「広報・公聴/新しい住民参加」
地方自治体

40億円

西日本新聞の普及エリア5県下には、
80の市が存在します。
80市の広報・公聴、各種調査、
DXに対応するコミュニケーションに
関わる概算規模は上記のように
見込まれます。

広報・公聴を再構築しながら
住民-行政-議会間の信頼構築を行える
DX対応型コミュニケーションを提供できるのは、
『西日本新聞様×ポリネコ！』だけです。



『ポリネコ！』ってなに？



『ポリネコ！』とは何か？ ー背景と展開ー

社会のコミュニケーション性能を
向上させる特許技術に基づくエンジン



岩田崇（株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp）

2020年6月15日
6月30日追記



『ポリネコ！』とは、Political Needs Coordinator
国民的議論、地域を挙げた議論を可能にする
唯一のコミュニケーション方法です。

国民的議論、地域を挙げた議論とは、
人々がデータ、ファクトなどに基づく意思表示（輿論）を
相互に行い、国権の最高機関である国会議員、地方議会と共に、
社会的課題に向けた最適解、納得解を確立、共有、更新できる
コミュニケーションです。

ビルド/シェア/アップデート

民主制とは、
開かれた議論、討議の場を前提としているシステムです。
この前提が確保されない時、システムは機能不全となります。

コロナ禍で顕になった

私達の社会の現状（大きな課題から逃げる/放置する/忘れる）

政治・行政 ： 無謬性を指向する

科学者・専門家：失敗を前提に新たな知見をもとに
アップデートを繰り返す

社会の人々 ： 安心・安全を求めてしまう

目標を共有できない社会

人々を繋ぐ『信頼/TRUST』を構築する
コミュニケーションが不可能な状態

私達の社会とコミュニケーションの性能不足による 社会的損失の一例（情緒に走り、大きな課題から逃げる/放置する/忘れる）

この性能不足の状態を脱しなければ、国が傾き社会が衰退する

これらは“開かれた議論の方法”を私達が持っていれば、回避できた可能性が高い

・ 契約書を精読、共有せずにオリンピックを推進、誘致

契約書は東京都がIOCの下請けとなる内容だったが、この「ファクト」よりも「感動」などの情緒的な面が強調され、開催決定後も「世界一カネのかからない五輪」のはずが制御できず、史上最大級の予算規模になり膨張し続けている。現在も予算全容は把握できていない。

・ 14年前に問題点を把握しつつ国産ワクチンに未対応

国産ワクチンの重要性和対応が必要なことは厚労省のワーキンググループで認識され、文書（『ワクチン産業ビジョン』2007）で公表されていたが対策は講じられなかった。mRNAワクチンについても研究はあったものの予算がつけられず、安全保障に関わる重要課題でありながらワクチン後進国となっている。

・ 90年代に少子化を課題認識しつつも、30年に渡り対策に失敗

1970年代から少子化を予見しながら（『人口白書』）90年代迄対策を講じず、対策も散発的な取り組みに終始。データ、ファクトの収集、分析、提言を怠りその結果、産みたい人が産めない社会となっている。「未婚者の心に寄り添った調査、分析、政策提言ができていなかったのではないか」（山田昌弘2020）、産業構造、人口政策、安全保障をまたぐ戦略を構築できていない。



社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

主権が国民にありながら、
最高権力を持つ主権者のための
コミュニケーション環境が
社会実装されていません。

この矛盾が^{①②③④}

「民主主義の危機」^{⑤⑥}となって
社会運営を困難にしています。

『ポリネコ！』はこの矛盾を^⑦
解消する仕組みです。

- ①日本型スーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化できない
- ②「国民的議論」を実現できない
- ③国民-政府間に「信頼」やビジョンをつくり共有する方法がない
- ④政策形成がブラックボックス化し、最適解納得解を確立することができない
- ⑤イノベーションより誰からも怒られない縮小均衡を選びがちになる
- ⑥専制、権威主義の方が良い気がしてしまう
- ⑦コミュニケーション環境の社会実装を行います



社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

もっと簡単に述べると、
 これまでの新聞報道、テレビ番組放送
 アンケート調査をいくら重ねても
“データ、ファクトに基づく意思を^①
集約し、個々人を社会につなぎ、^②
信頼をつくること”^③
民主制の後退、国、地域の持続可能性の脆弱化 ④
「民主主義の危機」^⑤を生み出しています。
 この下線部を、できるようにするのが
 『ポリネコ！』です。

- ① 世論調査では、問われる事柄の背景を知らなくても主観や直感、先入観による回答となる
- ② 記事を読む、番組を視聴するという行為の先はUXは用意されていない
- ③ 自分と相手が、価値を共有していることが信頼形成につながりますが、自分以外の人々や組織の考えを知るUXはない
- ④ 日本だけでなく、米国や欧州など世界各国共有の課題となっている
- ⑤ その結果、格差の拡大や中長期の合理性戦略性よりも目先の損得を重視してしまう傾向が起きやすくなっている



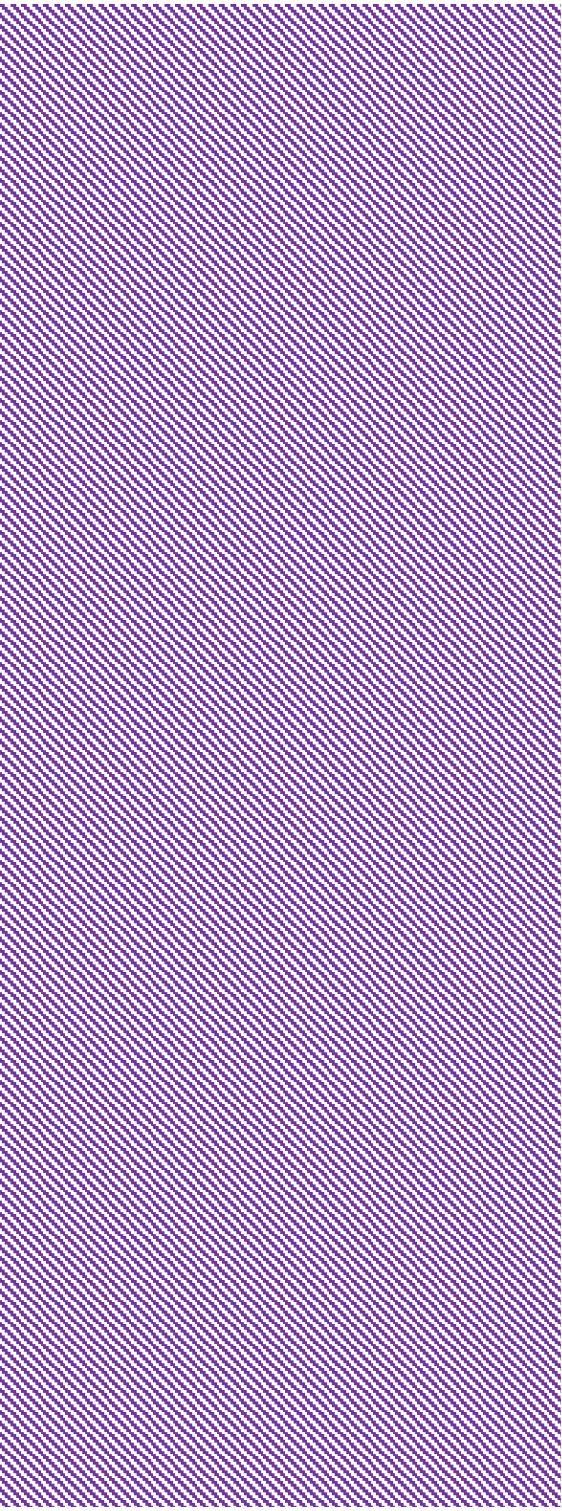
社会のコミュニケーション性能を向上させるエンジン

『ポリネコ!』は、^①
コミュニケーションの構造的弱点を克服し、
社会や地域の持続的経営に不可欠な
データやファクトに基づく信頼^②を
特許取得の独自プロセス^③によって醸成できる
新しいコミュニケーションインフラです。

1. コミュニケーションの構造的弱点とは？

2. データやファクトに基づく信頼が
重要で必要である理由

3. 特許取得の独自プロセスとは？



1.

コミュニケーションの構造的弱点とは？

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点①

気分と主観で意思表示できる世論

-データやファクトを踏まない意思表示が重視される環境

・世論と輿論

メディア各社が頻繁に調査を行う

背景や関連する事象を
知らなくても主観と感覚で意思表示できる

世論

popular
sentiment
民衆感情

調査がない

背景や関連する事象を
知った上で客観性をもって意思表示できる

輿論

public
opinion
熟慮した意見

近代
知識人の
認識

外道の言論・悪論

天下の公論

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点②

分散・希薄化するメディア接触環境

- マスメディア、ローカルメディアの機能不全
- 継続的に考える機会の喪失

・現在のメディア接触環境

テレビ



- ・視聴率低下
- ・視聴層の高齢化

新聞



- ・発行部数減少
- ・1世帯0.61部

世論調査



- ・知らなくても回答できる

ネット



- ・一部の影響を受けやすいSNSの構造
- ・取材力の低さ

地方自治体の広報・公聴



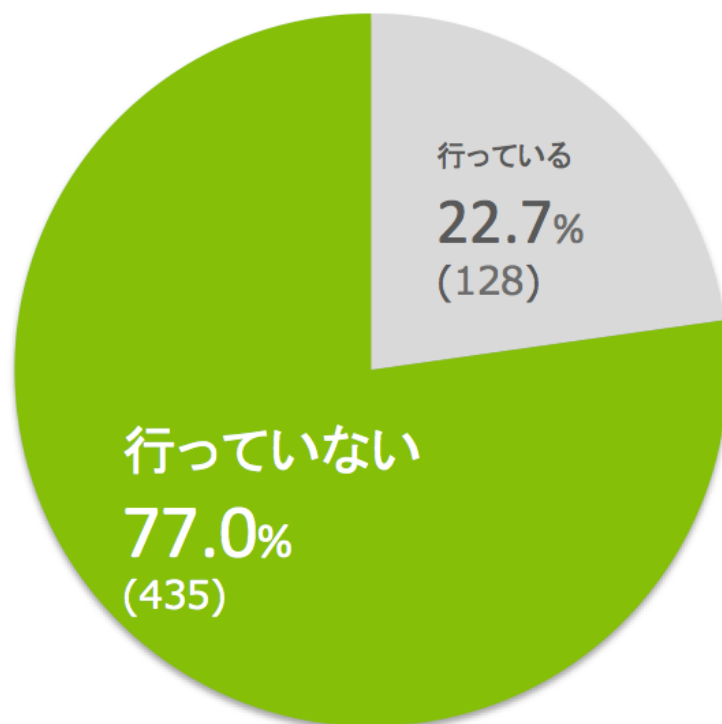
- ・約80%の市、町で効果検証なし
- ・実質的な機能不全

自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

やりっ放しで、若年層の声を聞かない

約8割の自治体が広報広聴の 効果検証をしていない

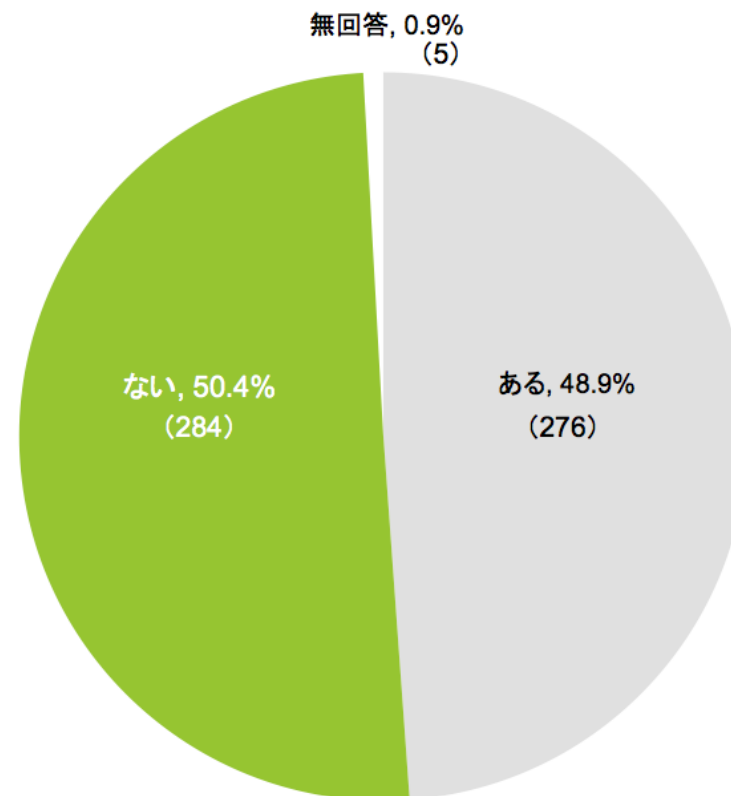
広報・公聴の効果測定を行っていますか。



・効果検証しても非公開であったり、効果検証の内容が課題認識が曖昧なこともあり。

半数以上の自治体が 若者の声を聞いていない

選挙権を持たない18歳未満の住民の地域経営、政策形成への参加、意見表出の場はありますか。



・「ある」場合でも、予定調和な機会を以て「ある」としているケースも少なくない。

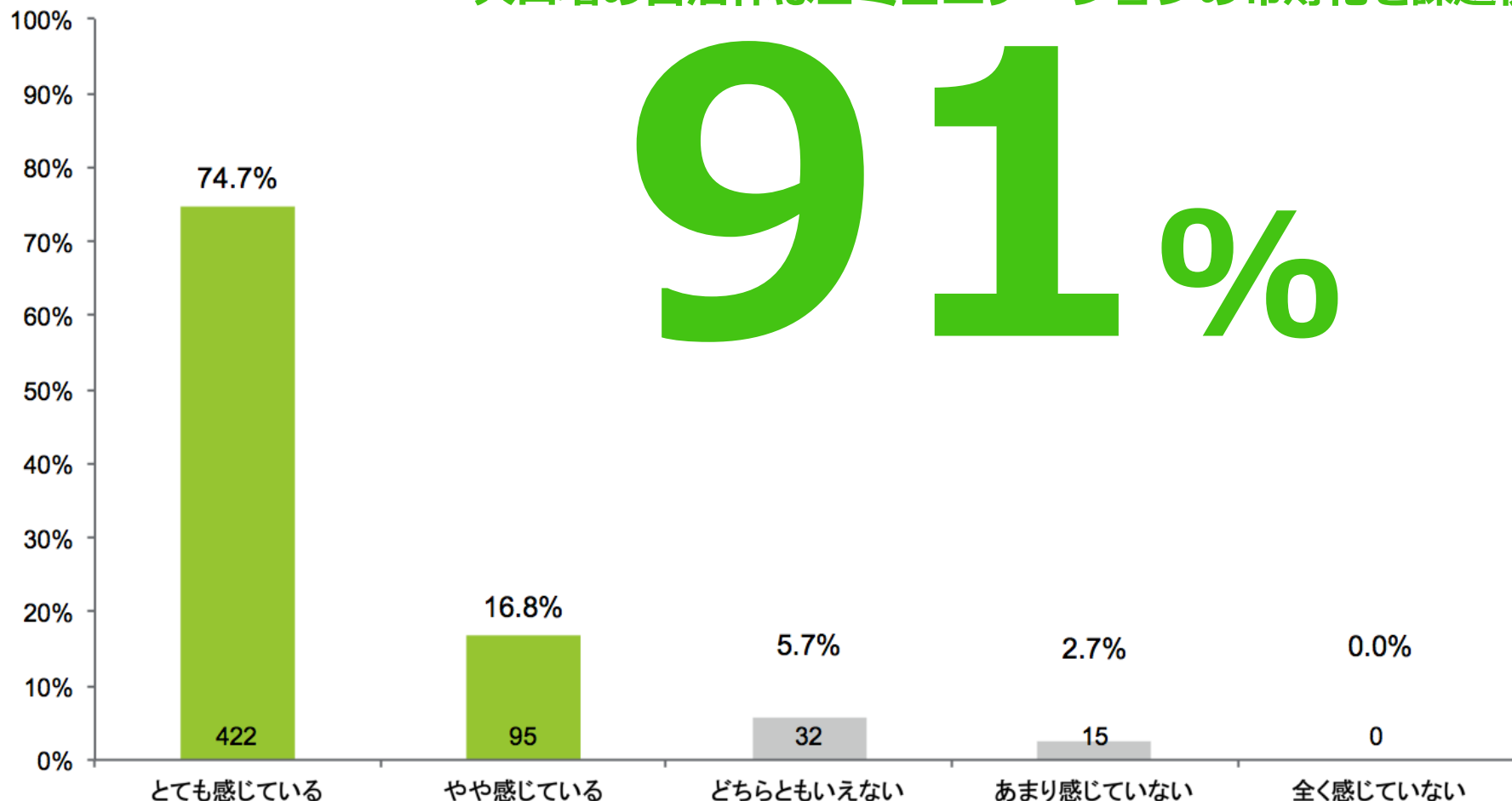
『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

自治体コミュニケーションの課題 -コミュニケーション軽視と機能不全

そして、人口流出（地域衰退）が課題に・・・

人口流出について課題を感じていますか？

約9割超の自治体が人口流出を課題視
人口増の自治体はコミュニケーションの希薄化を課題視



『自治体コミュニケーションの未来を展望する調査2019』より
デロイトトーマツコンサルティング、岩田崇共同調査

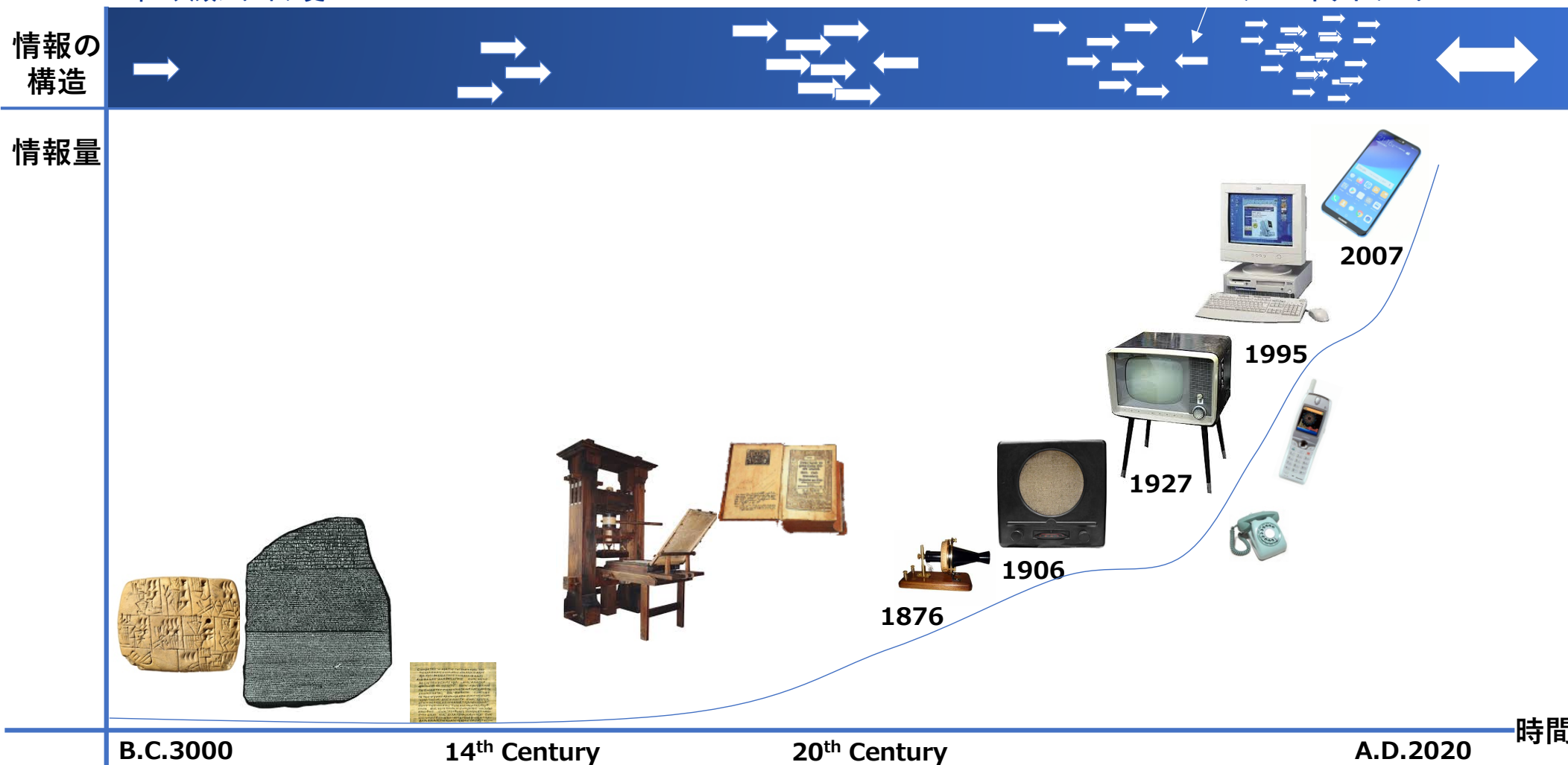
現代のコミュニケーション構造に起因する弱点③

情報の流れが一方通行 ➡ であること

- フィードバックのないコミュニケーション（やりっぱなし）
- 量で誤魔化せる

・ 5000年の人類メディア史

・ パソコンネットワーク



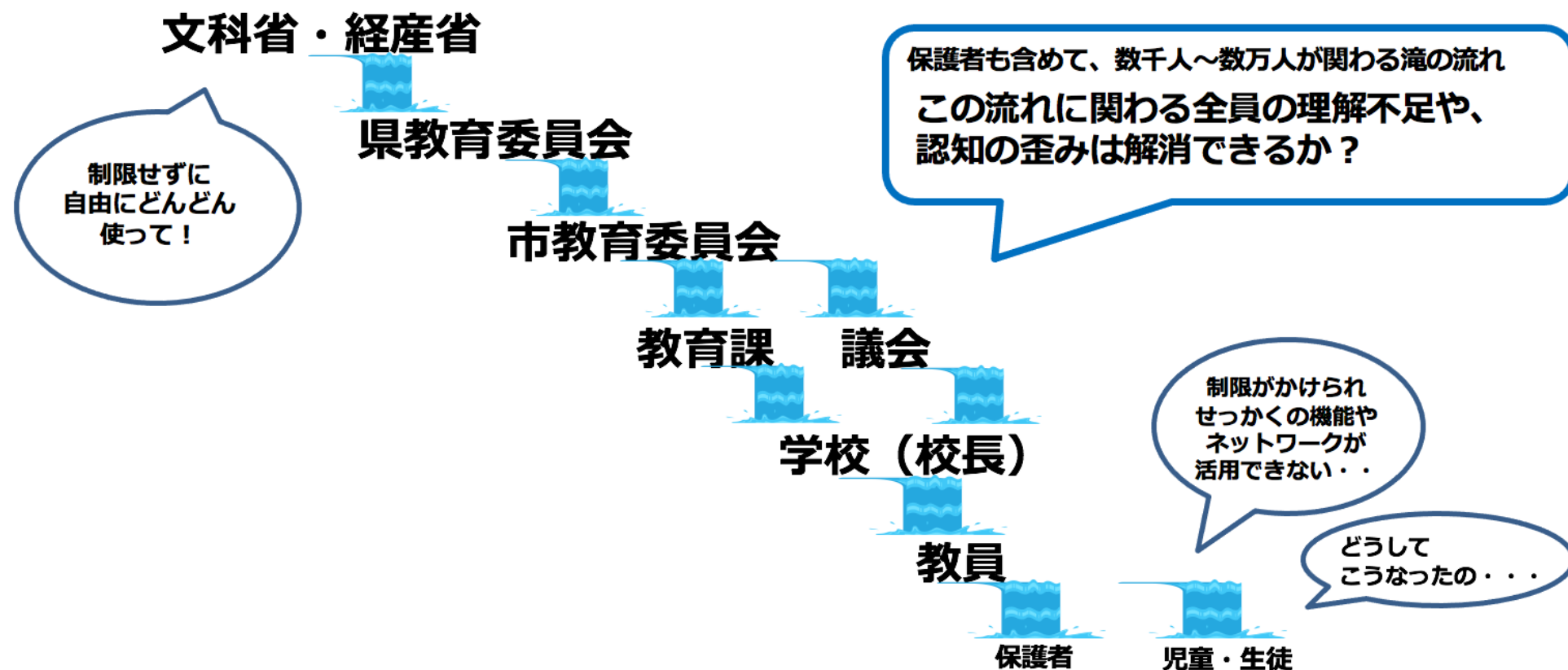
現代のコミュニケーション構造に起因する弱点④

『信頼』を構築できない滝型構造

カスケード

- 認知バイアスと無責任を生み出す合理的な構造
- 立場の上下が重視されてしまう

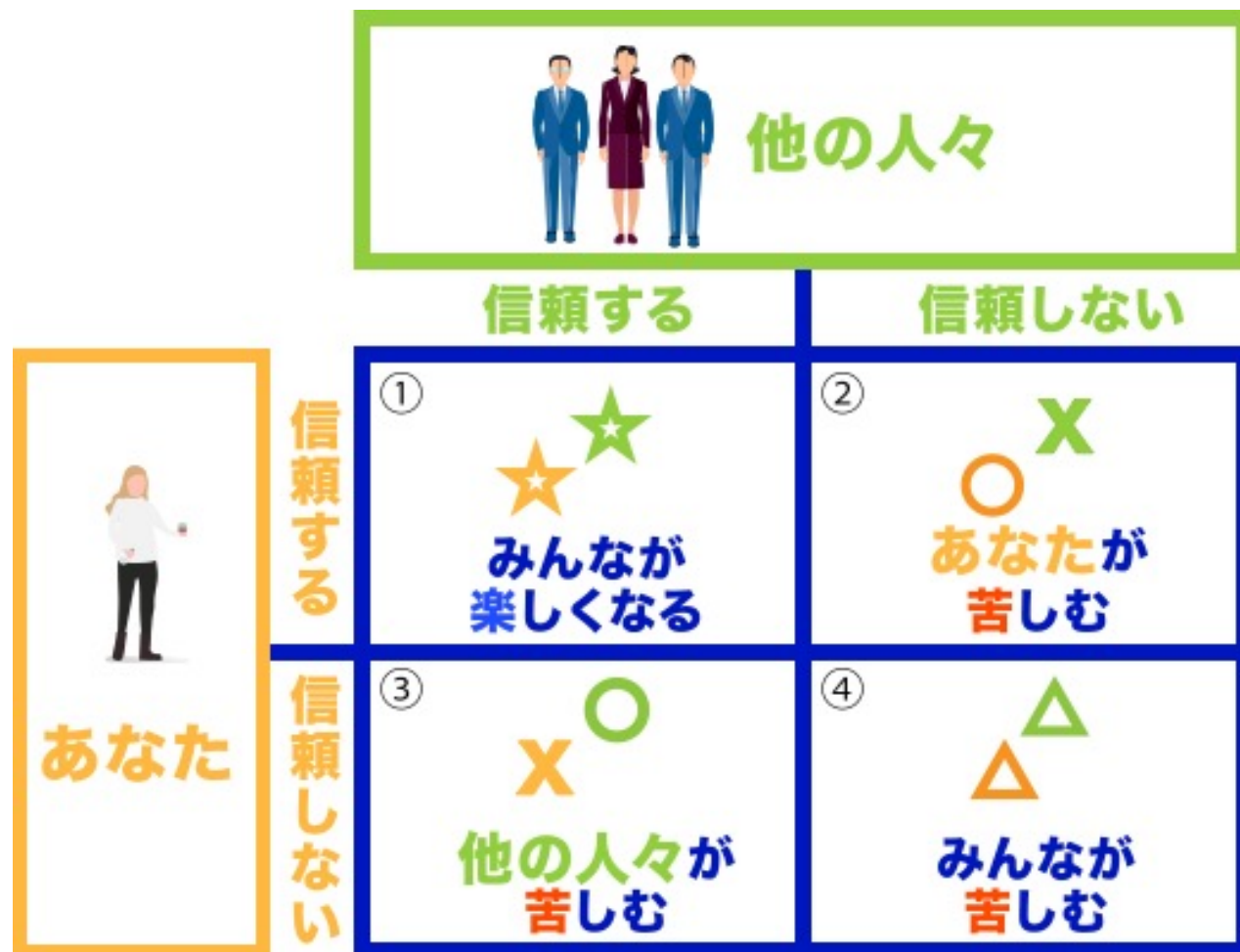
・行政の滝型構造（教育、GIGAスクールの場合）



『信頼』を構築できない囚人のジレンマ構造

- 協調のための手段、お互いの考えを知る方法/メディアがない
- 自分が損をしないために、合理的に④を選択する

・囚人のジレンマ図



①：協調して「最適解」を選ぶ

②③：正直者がバカを見る
：はしごを外される

④：「苦しくなること」を
合理的に選ぶ

言葉が通じない

- 同じ言葉、単語でも捉えられ方は異なる-認知バイアス
- 捉えられ方（誤解も含め）を把握し、調整する仕組みがない

・通じているようで通じない私たち

たとえば

GIGAスクール

Global and Innovation
Gateway for All

個別最適な学びの
環境の実現



政策立案、発信者

通信量！
スマホ学割
PCやiPadのこと？



教員、保護者、児童・生徒
行政職員、メディア関係者

*教員の方でもGIGAの意味を知らない
ことは珍しくありません。

現代のコミュニケーション構造に起因する弱点⑦

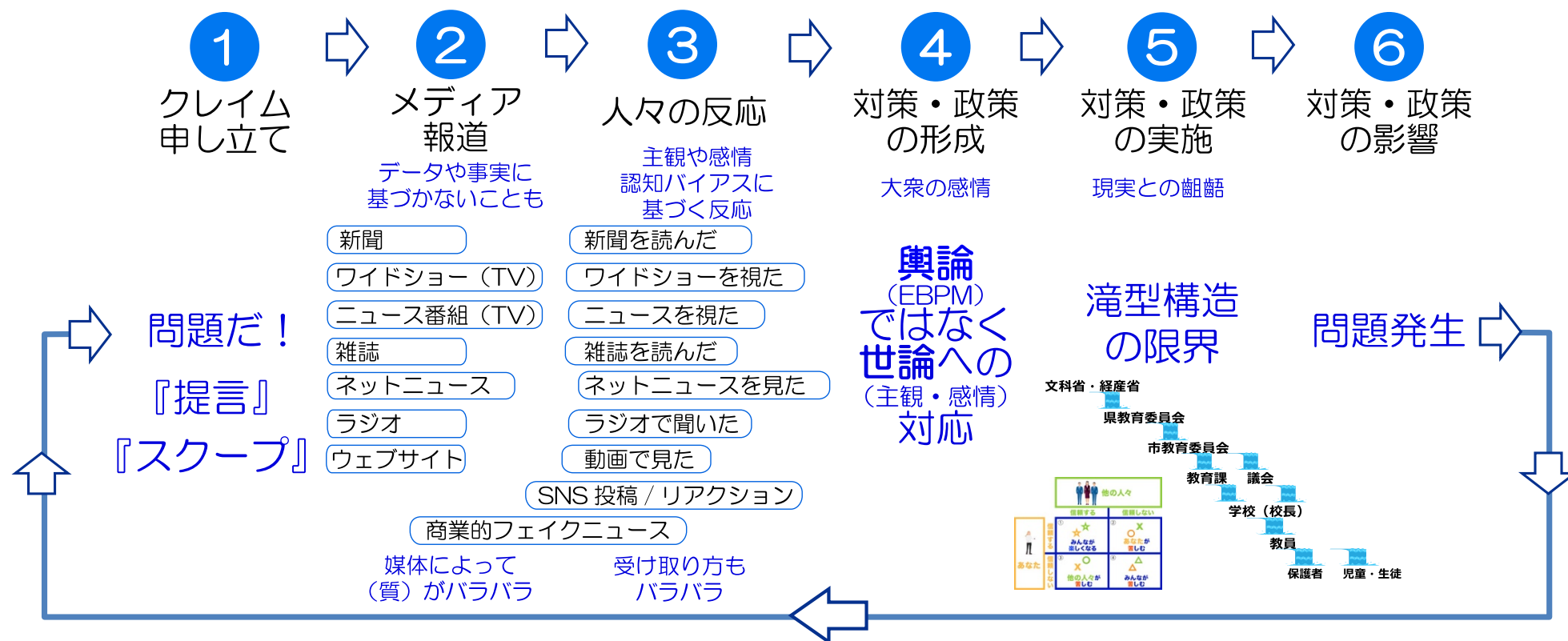
弥縫策が繰り返される悪循環構造

パッチワーク

国権の最高機関

- どんな知見、報道が現れても社会・国会、議会に共有されない
- 全体より、一部の支持を集めることが合理的（無関心層の発生）
- 「芯」=コンセプト、ビジョンのなく、未来に進めない環境

・ 2010年代以降のメディアコミュニケーションフロー



現代のコミュニケーション構造に起因する7つの弱点 まとめ

①



主観、感情に基づく意思が世論、民意

②



継続的に考える機会が（ほぼ）ない

③



フィードバックのない情報の流れ

④



上下関係、認知バイアスに影響される滝型構造

⑤



誰がどんな考えかわからない

⑥



言葉の捉え方を把握し調整できない

認知バイアスの放置

⑦



パッチワークが繰り返される悪循環

現代のコミュニケーションには
**データ・ファクトに
基づき意思を示し合い
議論を行う機能が
不足している**

熱心な取材や紙面、番組、
webコンテンツを重ねても
不足した機能を補えない



**『信頼』をつくり
共有することが
できない
-社会の劣化-**

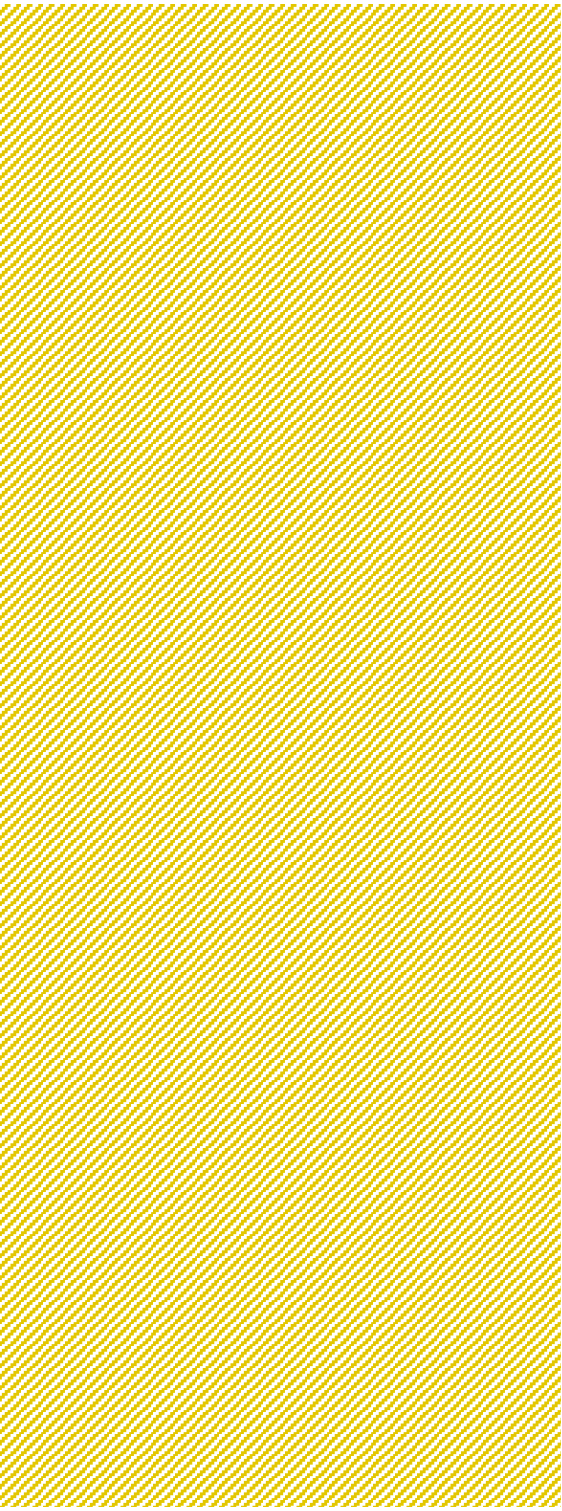
まとめ

戦争に進んだ80年前と変わらずデータとファクトを踏まえた
-国民的議論、地域を挙げた議論を行う手段を持っていない。



~2021
前が見えない
バックミラー社会

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021



2.

データやファクトに基づく『信頼』が
重要で必要である理由

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 信頼がなぜ重要か？

TRUST 『信頼』

人の能力が最大限に発揮されやすくなる

中長期の視点に基づく投資、政策、施策を行いやすくなる

自分以外の他者を考えられるようになる（思いやり）

新しい技術、表現などイノベーションが起きやすくなる

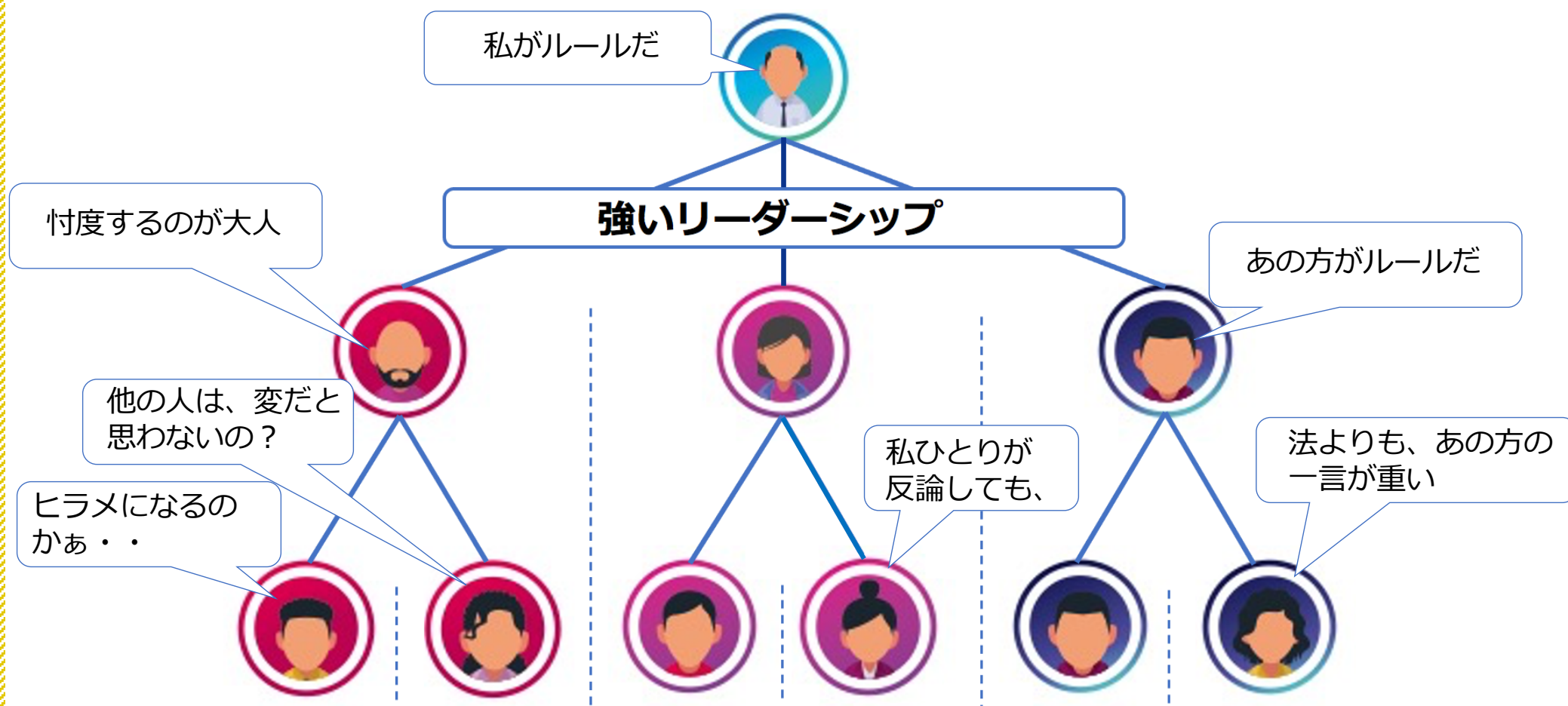
緊急事態に利己的な行動が抑止され、全体最適を実現しやすくなる

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

属人的統治の限界

リーダーシップ

強いリーダーシップ（カリスマ）は権力の集中による強力なマネジメントが可能です。組織コミュニティ内に信頼関係が生まれにくく、忤度を生み、人々の思考を停滞させ、イノベーションも阻害されるリスクがあります。



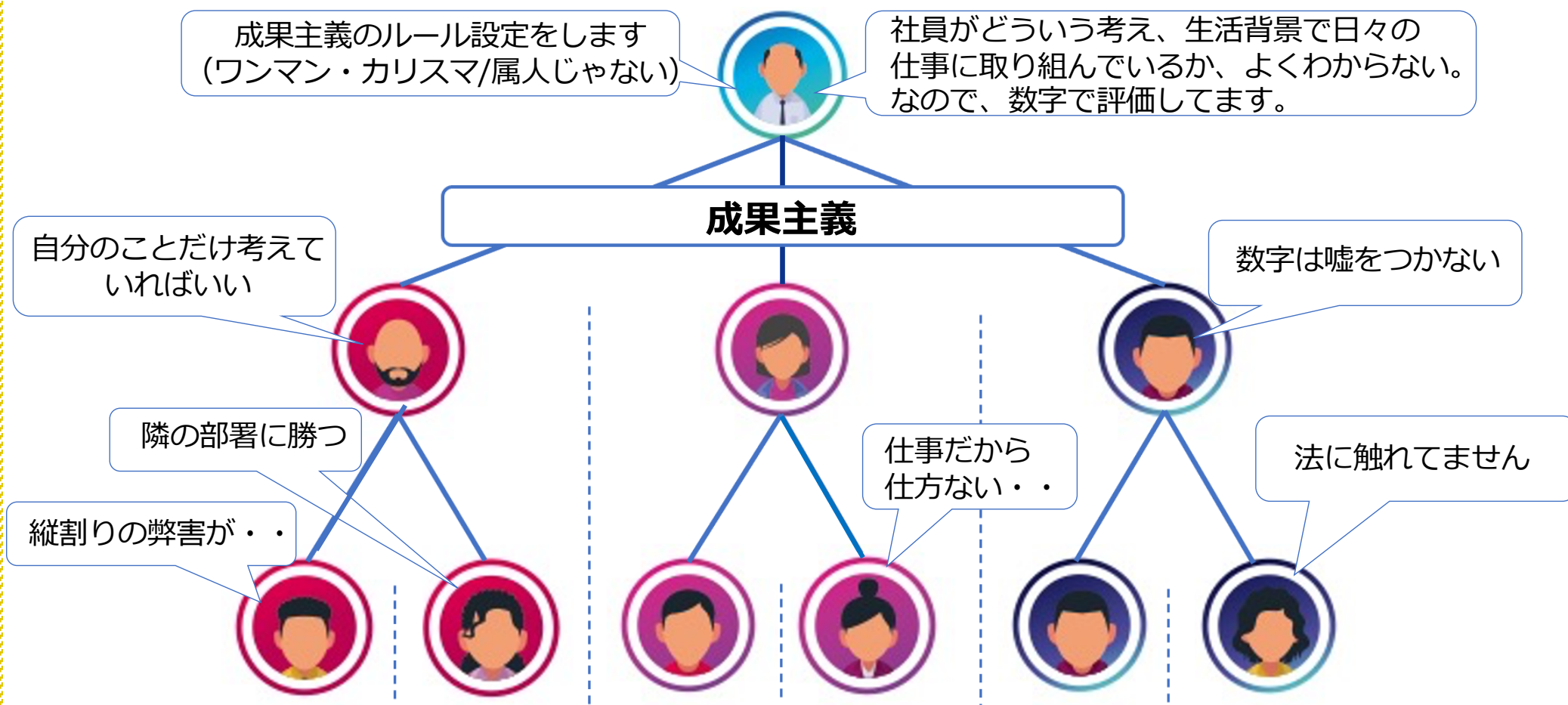
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

数値やデータによる統治の限界

成果主義

一方、数値やデータを重視するマネジメントでは、属人的経営の弊害はなくなるものの、目先の数値やデータに人間が従属することで信頼関係が生まれにくく、人々の思考停止、イノベーション阻害のリスクが生じます。

(数値の基準を決めるプロセスに新たな属人的弊害が生じることもあります。)



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

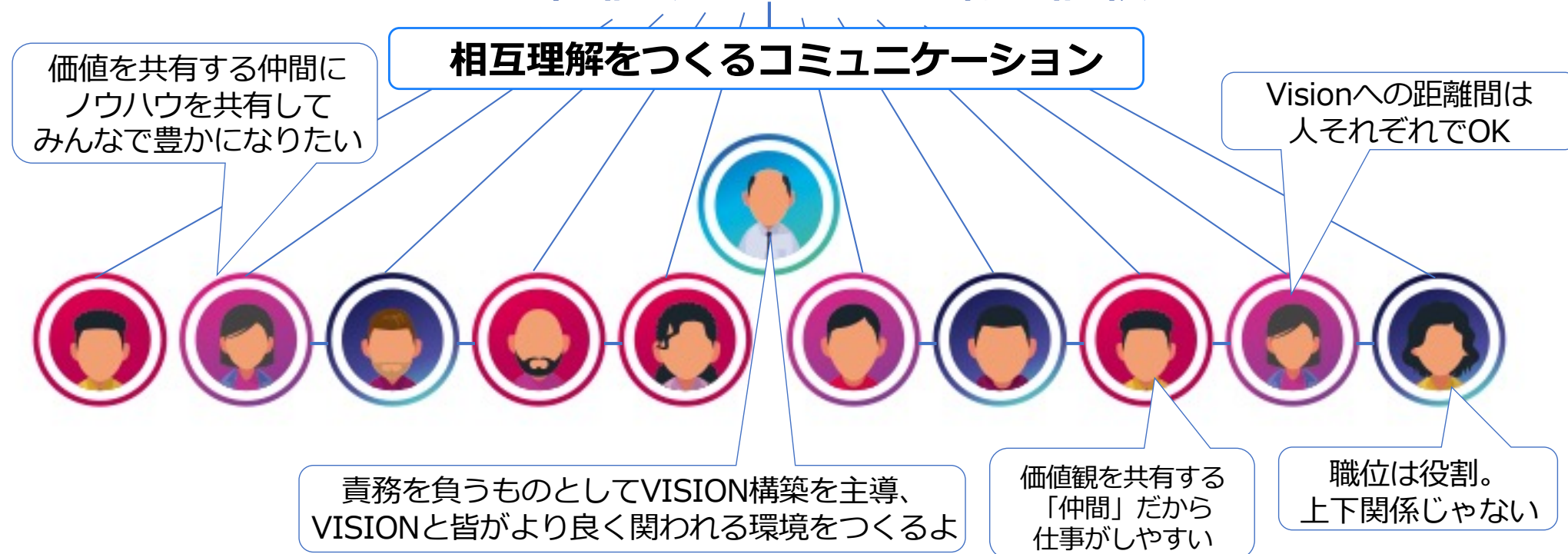
属人的統治、数値やデータ経営の統治を超える 信頼共有型統治-VISOIN DRIVE-

データやファクトを踏まえながらどう暮らしたいか？という意思表示に基づき価値観の共有、把握ができると『信頼』に基づく社会、コミュニティのガバナンスが実現できます。信頼を基礎として、思考の活性化、イノベーションが促されます。

(同時に属人的経営や成果主義の弊害を最小化)

VISOIN

共通の価値観に基づく目標=信頼



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

価値観の共有による信頼/VISIONはあった？

議論せずとも

焼け野原という共通体験と、豊かになるという共通ビジョンが「信頼」として機能した



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 信頼の重要性

「信頼」を形成、運用できずに、失敗を重ねてきた歴史

1762

フランス革命期における
人民主権の発見・発明

基本的人権、国民主権という発明

日本における普通選挙のある社会運営の開始

1928

第1回普通選挙
「一等難しい宿題」
柳田國男

社会運営の失敗。

1945

無条件降伏

国民主権が明記された日本の誕生

1946

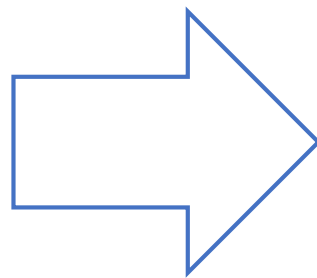
日本国憲法における
国民主権の明記

昭和三十一年十一月三
内閣総理大臣兼
外務大臣
國務大臣男爵
松本 正一郎
裕仁

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 いままで信頼をつくれなかった理由

分散、拡大した主権を繋ぐ仕組みのデザインが必要だが、対応する存在、機関がない
この仕組みのデザインがないと・・・民主制であっても属人的、忖度の権威主義に

主権
1名・独占所有



国民主権
数千万から億人・分散所有



データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 いままで信頼をつくれなかった理由

- 同じ国、同じ言語に暮らしていても「壁」が各所に存在する。
- 「壁」を超えること＝信頼をつくる仕組みのデザイン



社会にビジョンが共有されない
政治-国民間で『信頼』が育まらない

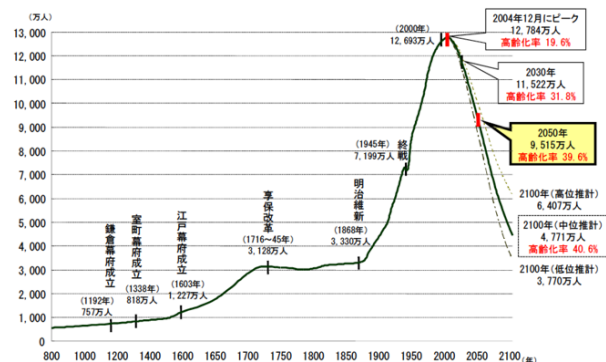
データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

信頼が最も必要な歴史的局面-2021年からの数年-

- 精緻な社会運営には『信頼』の確立と共有が極めて重要
- しかし、『信頼』をつくる手段は脆弱な状態

日本社会の状況

- ・有史以来初めての急激な人口減少局面への対応
- ・データやファクトに基づく精緻な議論と信頼できる最適解の共有が必要



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

政府が目指す社会

- ・経済発展と社会課題解決の両立する人間中心の社会



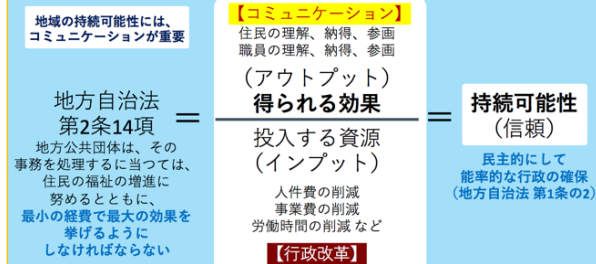
Society 5.0
DX対応

デジタルトランスフォーメーション

地方に求められる地域経営

- ・削る＝合理化、改革の限界
- ・持続できる地域のためには、住民と行政との「信頼」が不可欠
- ・住民との信頼をもとに未来に向けた投資的取り組みが可能に

これからの地域経営の考え方



GIGAスクール

(Global and Innovation Gateway for All) × 個別最適な学び × 持続可能な社会の創り手をつくる教育体制 (学習指導要綱)

DFFT (Data Free Flow with Trust (信頼ある自由なデータ流通))



SDGs (誰ひとり取り残さない社会を目指すコンセプト群)

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

DXの基礎は『信頼』

デジタル社会

DX=個を起点とする生活環境への変化(トランスフォーメーション)

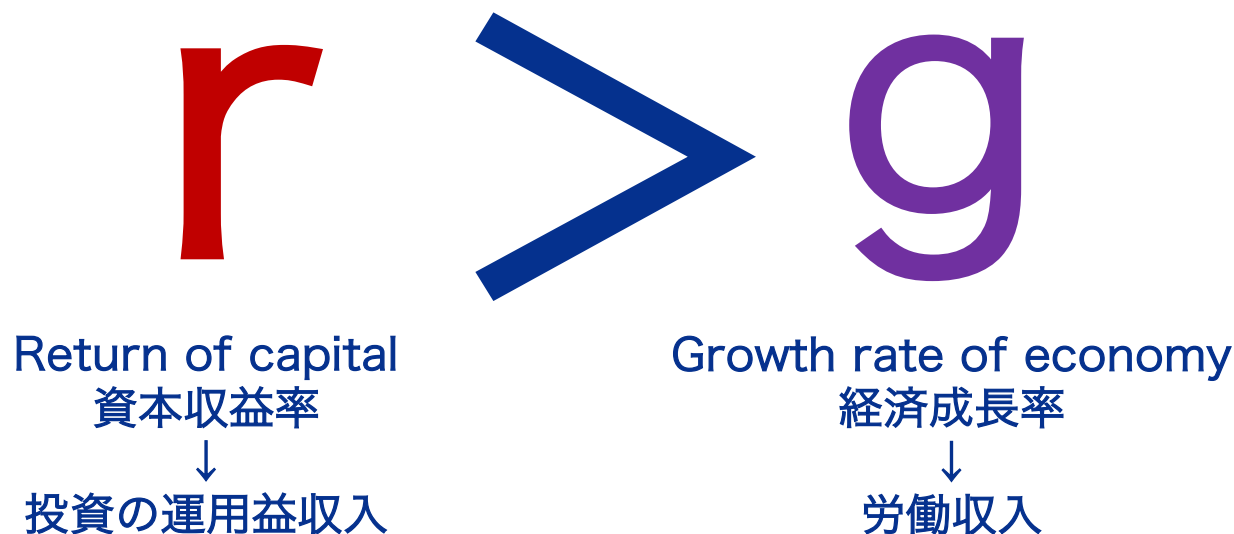
DXの本質的な意義と価値は、個を起点にする環境構築ができるほどにICTが社会に浸透したことによる基本的人権の社会実装にあります。事務や手続きの効率化、迅速化はその表層パートであり、デジタル社会（DX）のコアは、コミュニケーションの最適化による住民間、住民-行政間の『信頼』（TRUST）の構築にあります。

	いままで	Transformation	これから
	外部環境に個が合わせる		個を起点に外部環境を構築できる
社会の命題	経済成長と経済合理性 (効率・生産性)	個人レベルへの ITの浸透による 社会のシフト	持続可能性と社会善/ソーシャルグッド (創造性)
組織の意義	生産性を追求しリソースを管理	DX デジタルトランスフォーメーション	多様な個人の発見・創造を尊重し、 価値化する
個人の意義	組織のために効率を重視し働く	(個別最適な学び) GIGA スクール	社会のために自分が楽しく幸せに暮らす
関係性	組織の目的のために個人が存在	(DXによる個人起点の社会) Society 5.0	個人のための機能する組織
アウトプット のための 与件と能力	- 組織からの条件、指示に応える - 組織、社会に従う - 過去の成功、前例を重視	(DXによるウィルス対応型社会)	- 自らの存在意義を定義する - 自らの存在意義を組織・社会に示す - レビューとイノベーションとコラボ
課題	資本主義の限界	Post Covid-19	個人と組織・社会の秩序の両立 (コーディネーション)

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由

資本主義システムからの『信頼』の重要性

- 富の偏在による格差が自然と起こることによるシステムの限界
- アダム・スミスも人と人の共感を重視していた（但し、神の手を過信してしまっていた）
- 市場の失敗を乗り越えるための公共の介入には信頼の裏付けが有効



『21世紀の資本』 Thomas piketty 2014

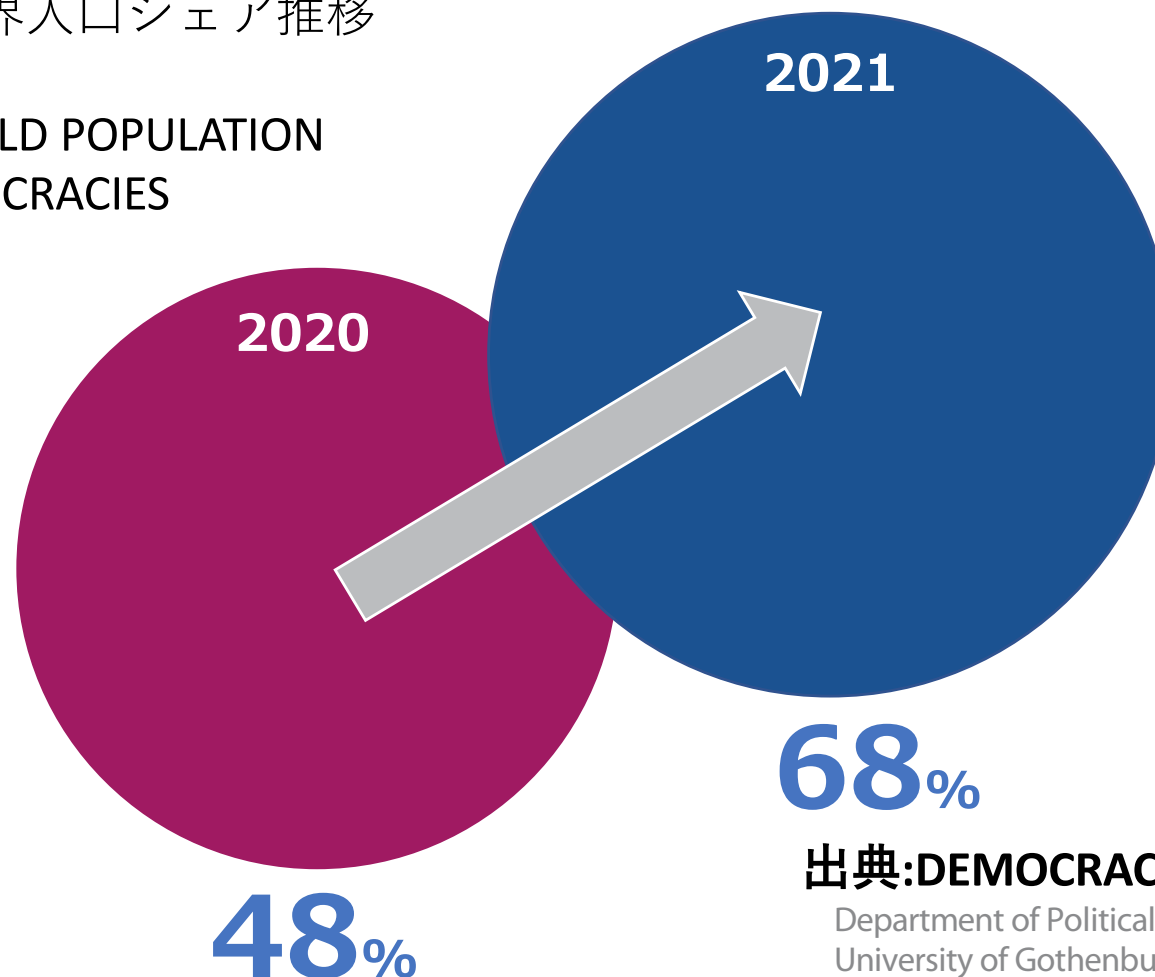
経済成長率が下がると格差が広がり、社会が不安定に、
不安定状態を回避する調整システム/コミュニケーションによる信頼構築が必要。
しかし、対応できる方法はない

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 地政学的観点からの『信頼』の重要性

- 専制体制の社会、そこに暮らす人が世界全体では増えている
- 専制体制は、民主制社会がうまく行っていないことを指摘して優位性を誇る

専制体制の世界人口シェア推移

SHARE OF WORLD POPULATION
LIVING IN AUTOCRACIES



出典:DEMOCRACY REPORT 2021

Department of Political Science
University of Gothenburg

<https://www.democracywithoutborders.org/>

データやファクトに基づく『信頼』が重要で必要である理由 まとめ

-Building “TRUST”-

『信頼』づくりは、
日本の命運を左右する。

3. 特許取得の独自プロセスとは？

特許取得の独自プロセスとは？

いまのコミュニケーションの弱点を克服する

①



データ・ファクトを踏まえた意思＝輿論を調査

②



継続的に考える機会

③



フィードバックのある情報の流れ

④



上下関係、認知バイアスに対応する水平構造

⑤



誰がどんな考えかわかる

⑥



言葉の捉え方を把握し調整できる

認知バイアスの把握・調整

⑦



パッチワークが繰り返される悪循環の外部に

データ・ファクトに
基づき意思を示し合い
議論を行う仕組み

熱心な取材や紙面制作、
番組制作、webコンテンツ開発と
ポリネコ！が連携すれば新しい価値に



ポリネコ！



『信頼』をつくり
共有することが
できる

特許取得の独自プロセスとは？

信頼構築モデル

- 信頼を規定する成分から考える
- 最も有効なのは・・・
- SVSモデルによる信頼形成を実現できるUX、メディアはあるか？ -無いからつくる

【信頼を規定する成分】

1.能力認知

有能、専門技術、権威など
(スゴそう)

2.動機づけ認知

努力している、熱心だ、誠実さ

3.価値共有認知

同じ目線に立っている、気持ちを共有している
何を重視するか一致しているか
どのような結果を選好しているかが同じか

主要価値類似性(SVS)モデル (Earle & Cvetkovich, 1995)

TRUST
『信頼』

『ポリネコ！』の仕組み

立場の上下なく、国民と政治家や有識者が一緒に
水平な関係で、社会や地域の課題に関わるデータや
ファクトを知り、学び、考え、意思表示し合うこと
SVSモデルによるTRUST構築
で信頼を構築しながら繋がり、フィードバックを
SDM (Shared Decision Making) モデル
俯瞰しながら最適解、納得解を見出し、共有する、
特許に基づくコミュニケーション。

特許取得の独自プロセスとは？

国民主権に対応する コミュニケーションのデザイン

-壁で遮られているそれぞれの立場の人々を1つのコミュニケーション上に

共通の考える材料に
基づく意思表示で
「信頼」による社会運営を実現



特許取得の独自プロセスとは？

風通しをよくする

- 各所の「壁」に穴をあけて風通しをよくする。
- 「壁」を超えること＝信頼をつくる仕組みのデザイン
- 滝型から水平型構造のコミュニケーションへのシフト



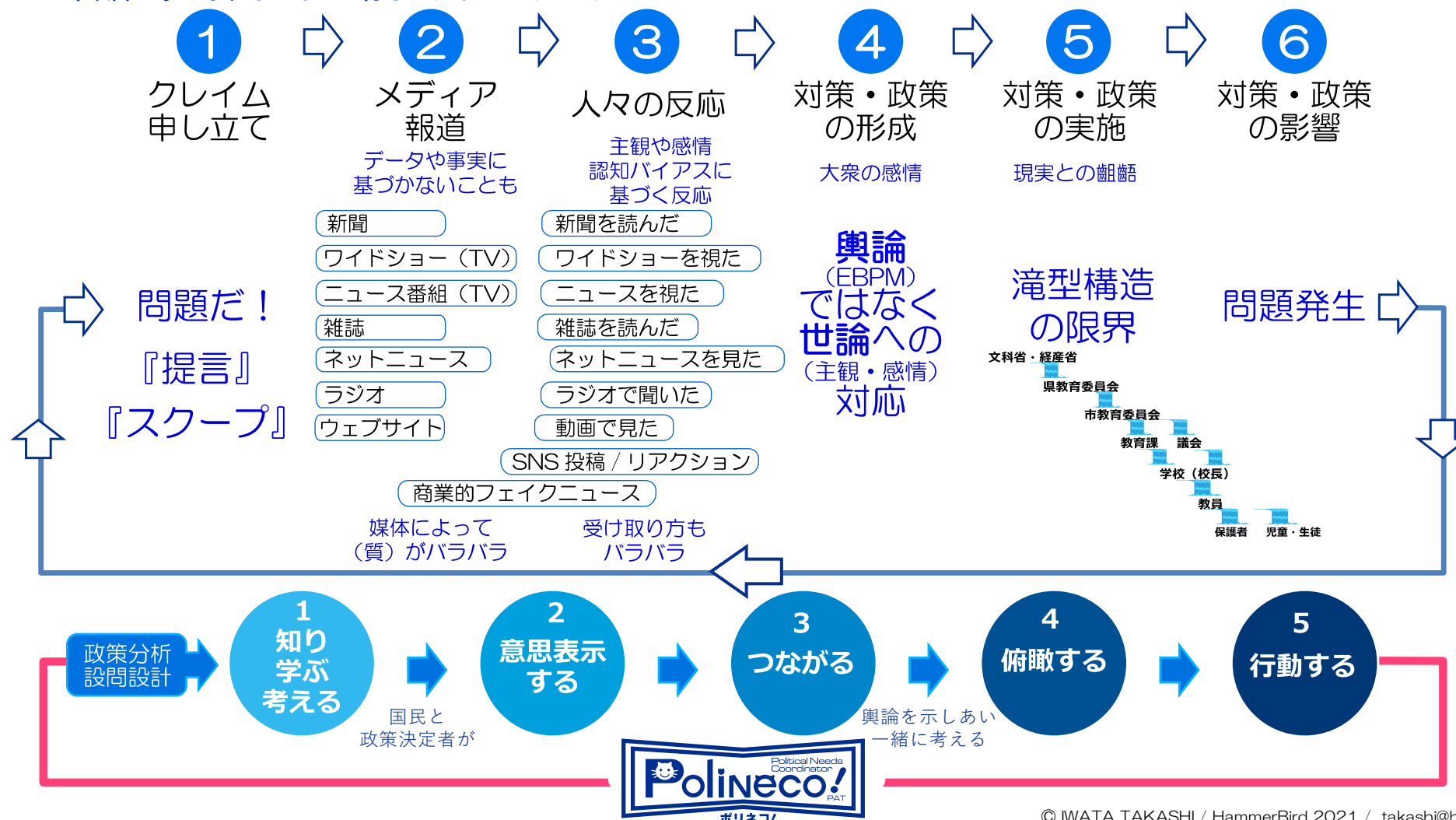
社会にヴィジョンが共有される
政治-国民間で『信頼』が育まれる

特許取得の独自プロセスで実現すること

現在の構造に別レイヤー・バイパスを設ける

- 政策決定者（国会議員、地域の議員）とつながるコミュニケーション
- 『信頼』をつくるガバメント・リーチの実現
- 全体にとっての最適解、納得解を考える手段と動機の提供

・ 2021年以降に求められるバイパス付きメディアコミュニケーションフロー



ステップ 1
知り
学ぶ
考える

記事や動画を見て、知る、学ぶ

・記事を読む、動画を視聴する



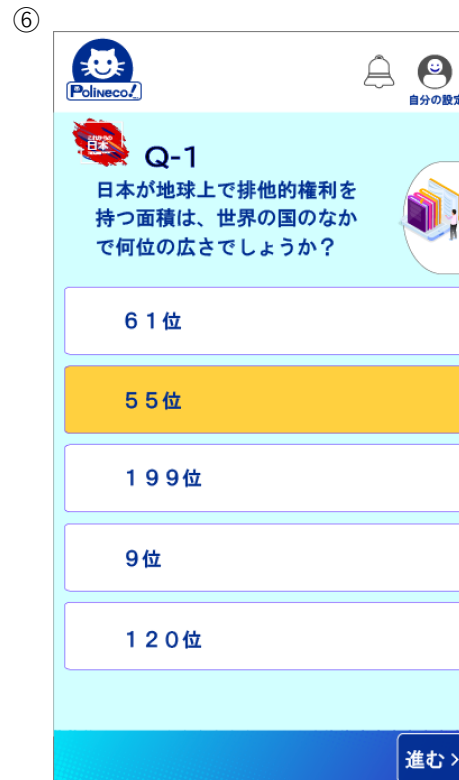
- * 社会や地域に関わる論考や、トピックスを記事や動画で紹介
- * 読んだり、視たりするなかで、上記のネコのマークを押すと、回答参加画面に移動

* 回答参加画面

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える



・ 正解のある設問

- * 設問は「正解のある設問」と「正解のない設問」の2種類
- * 「正解のある設問」は学習プロセスを通じて、認知の把握と調整を行います
- * GIGAスクールの意味や、ウイルスの特徴（生物ではないなど）さまざまな事象の知っているつもりで知らないを解きほぐします

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑧

Polineco

自分の設定

Q-1

日本が地球上で排他的権利を持つ面積は、世界の国のなかで何位の広さでしょうか？

199位

55位

9位

120位

61位

進む>

⑨

Polineco

自分の設定

Q-2

あなたは、これからの日本社会が最も重要視するとよいものは、何であると考えますか？

個人の自立

強い政治権力

お金の獲得

未来へのビジョン

特になし（なにも重要視しない）

上記以外を重要視する

<戻る

進む>

⑩

Polineco

自分の設定

Q-2

「特になし（なにも重要視しない）」を選択した場合、日本社会は、米国や中国など国外の要因に翻弄されることや、国際社会での存在感の低下、重要なことを自分自身で決定できないことによる弊害の発生も可能性として懸念されます。

選択を決定しますか？

選択する（次に進む）

選択をやり直す（一つ前にもどる）

<戻る

進む>

* 学習プロセスを経て、「55位」ではない選択ができるようになります。

・ 正解のない設問

* データやファクトを踏まえた意思表示を行います

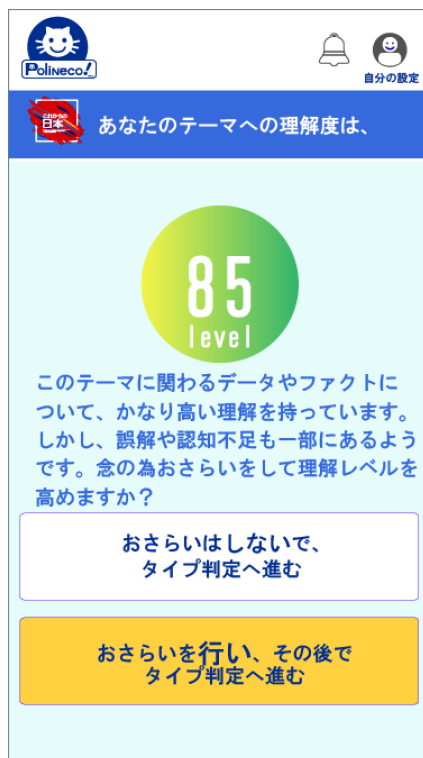
* 選択から予期されるリスクなども示し、考えた上での意思表示が行えます

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑪



- ・ 正誤に応じた再回答（おさらい）
- ・ 誤解、認知不足がどこにあるかの把握
- ・ 理解度ごとの回答者クラスター
- ・ 回答クラスターごとの回答傾向把握
- ・ 傾向に応じた追加設問の設定

* 地域や社会の課題に係る理解度を、「正解のある設問」の正答率から表示

* おさらい機能で、理解度を高めることができます

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 2 意思表示 する

回答を通じて、意思表示する



- ・ 理解度×「考えタイプ」表示
- ・ 言葉、文章の投稿が可能

⑭

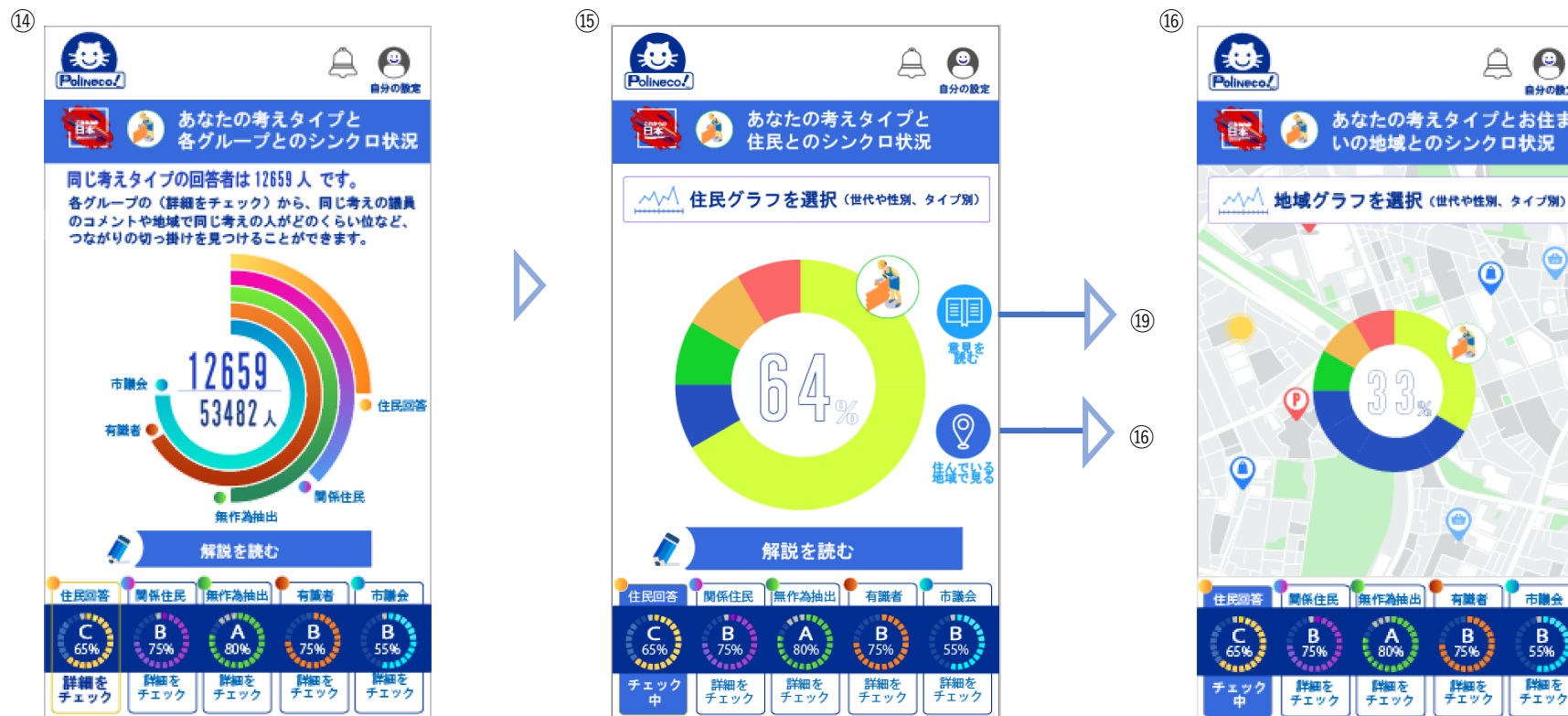
* 回答者の考えタイプを、地域や社会の課題への考え方、向き合い方を「正解のない設問」への回答に基づき表示

* ポジティブ面、ネガティブ面の両方を示し、再回答でもできるようにします

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 3 つながる

他の回答者につながる



・地域コミュニティ 町内会単位など

- * 自分の考えタイプと同じ考えの人が、各回答者のグループにどの位いるかをグラフで表示
- * "詳細をチェック"から、同じ考えの人の割合、他の考えの人の割合をグラフで表示
- * グラフはリアルタイムに変化

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 3 つながる

他の回答者につながる



* 議会とのシンクロ状況を表示



* 自分と同じ考えの議員及びその回答背景を読むことができます

* 同じ考え以外にも、自分とは異なる各考えタイプの議員や、政党、会派別の傾向、シンクロ状況を確認できます。

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 4 俯瞰する

回答の背景、傾向を俯瞰する

⑬

Polineco

あなたの考えタイプの
回答者のコメント、意見

コメント分析選択 (単語、結びつき)

時系列 ランダム good 順

oooooooooooooooooooo
oooooooooooooooooooo
oooooooooooooooooooo

□□□□□□□□□□ !

△△△△△△△△△△△△ ?

住民回答 関係住民 無作為抽出 有識者 市議会

C 65% B 75% A 80% B 75% B 55%

チェック 中 詳細を
チェック 詳細を
チェック 詳細を
チェック 詳細を
チェック

⑭

Polineco

統計データ

それぞれの考えタイプの特徴を
俯瞰して見る

テーマ「これからの日本」には 12 の考えタイプ
があります。それぞれのタイプになる回答した
みなさんが、どのような回答傾向を持っているか
を回答データを分析してみています。

世代や普段接しているメディア (情報媒体) によっ
て、回答傾向が異なっていること、また、回答サ
イクルを繰り返す中で、その影響が低下している
傾向を分析データから読み取ることができます。

最も回答数が多い考えタイプ『基礎から考えつくる』
の特徴は、10 代から 20 代の若年層が
最も多いのですが、各世代からも

Polineco

- 考えタイプのそれぞれのコメント、意見及びその集約分析を読むことで回答を俯瞰

- * 画面⑬に入力された考えタイプの背景など、回答者のコメントを確認することができます
- * テキストマイニングを行い、言葉の関わり、傾向の表示も可能

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する



- ・ 課題別に議員とつながる
- ・ コメントの投げかけなど
- ・ 読んで、サポート
- ・ 読まれ方の分析から改善へ

* 考えタイプが同じ人とは、価値共有認知でつながっている状態になります

* この繋がりから、議員との交流、サポートを行えるようになります

* 議員にとっても国民（小中高生も含め）にとっても、政策ごとの信頼関係を構築することができるようになります。

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

調査テーマについての
意思形成、合意形成を実現

②③



②④



メール配信
プッシュ通知

* 回答タイプや属性
(学生のみ、子育て世帯のみなど) に
応じたメール送信

- ・ 回答サイクルの運用
- ・ 考えタイプごとに設問を配信も

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

* 回答によるインセンティブを提供できます（地域の場合は商工課などと連携）
* また、回答参加を経て、無回答の議員への回答リクエスト、友人、知人への招待発行を行えます。

* 回答は一回で終わりではありません
* 回答サイクルが動き出し、考えタイプごとの設問配信、回答収集などを経て最適解、納得解の形成をすすめます

* 各画面は開発中のイメージ

特許取得の独自プロセスとは？

回答サイクルによる意思形成、成長する議論の基礎

- フィードバックのある、やりっぱなしにしないコミュニケーションサイクル
- 社会のヴィジョン構築にも対応できる継続的コミュニケーション
- 運営者（コントローラー）が明確であることによる、訂正の確実性

・『ポリネコ！』 5つのステップ



特許取得の独自プロセスとは？

テーマの切り替えで、組織内の意思形成、ビジョン共有に対応

-戦略、理念にコミットする上で個々人に知っていて欲しい事、その上で、個々人がやりたいこと
やりたいことの障壁となっていることは何か？などを問いかけを通じて、答えることで、
組織に関わる人々が、戦略、理念に対してフラット（水平）な形で意思表示できます。

-さらに、この回答を相互に「色」の形で見せ合うことで、
個を起点にビジョンを共有しながら組織コミュニティの最適化
を行うことができます。

-組織コミュニティ内に強いリーダーシップと縦割りの打破が
両立する「信頼」基盤を形成します。

日々の業務に向き合いながら、 世界と向き合う 1.ウィザード	理想を持ちながら 日々の業務に追われる 8.ルーキー
世界と向き合いながら、 日々の業務は二の次 2.ヴィジョンリスト	満足度の高い仕事を よりよくしたい 9.キーパー
日々の業務改善を考えつつ 世界と向き合う夢を持つ 3.ロマンチスト	満足度の高い仕事をよりよく したいが課題は見えない 10.ボーン
日々の業務にも世界にも向き合いたい けどまだ空想中 4.アイドリングマン	満足度の高い仕事を いつまでも続けたい 11.メンテナンスマン
日々の業務に向き合いながら、 社内で理想に向き合う 5.ファイター	受け身でも満足度の高い仕事を いつまでも続けたい 12.レイバー
社内で理想に向き合いながら、 日々の業務は二の次 6.ドリーマー	満足できない状態でも よりよくしたい 13.リアリスト
理想を持ちながらもまず 日々の業務を改善したい 7.インキュベーター	満足できない状態で 日々の業務に抗えない 14.ER

『ポリネコ！』の組織内展開イメージ



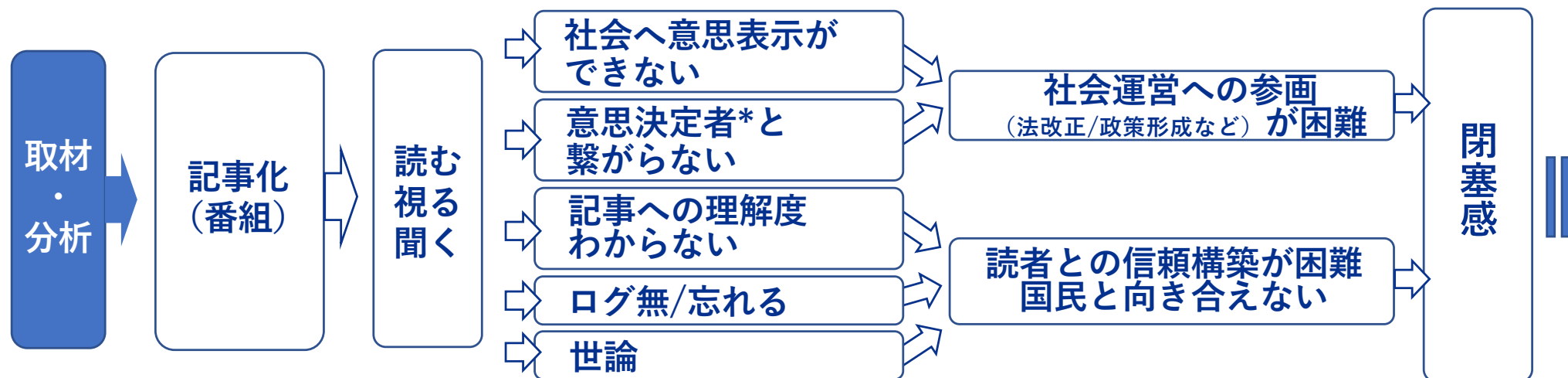
*上記画面は開発中のアウトライン版です。

理念・戦略への向き合いを共有。集計分析結果を踏まえて次の回答サイクルへ

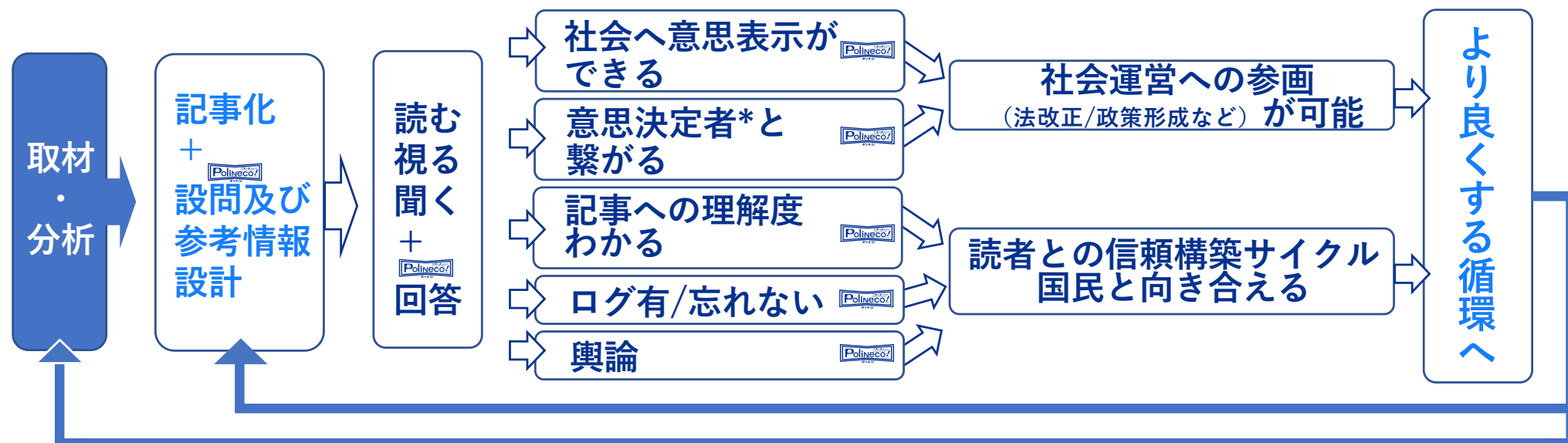
特許取得の独自プロセスで実現すること

従来メディア型アーキテクチャとの比較

● 従来メディア型のUXフロー/アーキテクチャー



● ポリネコ！型のUXフロー/アーキテクチャー





ポリネコ!

『ポリネコ!』は、
 ①新聞、テレビの機能拡張、
 ②地方自治体におけるコミュニケーション再構築、
 ③中央省庁が主導する政策形成・運用のための
 コミュニケーション、
 ④企業やNPOによるオープンロビイング、
 ⑤新しいニュースサービスなど
 個人と社会、地域をつなぎ
 信頼に基づく最適解をつくることが
 求められる各分野での活用が想定できます。

- ①新聞、テレビの機能拡張『ポリネコ!』に活用することで、記事や番組から政策形成、社会に繋がるUXと価値を提供
- ②自治体DXに不可欠なコミュニケーションのDXを『ポリネコ!』で具体化できます、同時に、日本型のスーパーシティ、スマートシティの「新しい住民参加」を具体化
- ③政府による『信頼』形成のコミュニケーションを『ポリネコ!』で実現可能
GIGAスクールの実装、エネルギーや漁業など国民的議論、アジャイルガバナンスが求められる政策課題に対応
- ④社会的意義のある事柄についての輿論形成を企業やNPOの提起から『ポリネコ!』で実現
- ⑤データ、ファクトを踏まえた輿論をもとに、政治家と一緒に課題解決、ビジョン形成等に参画できるニュースサービス

『ポリネコ!』で実現すること まとめ



特許取得の独自プロセスで実現すること 活用領域、テーマ

66



教育行政

自治体、地域経営

社会保障

エネルギー政策

漁業、林業、農業政策

データ・プライバシー

デジタルガバナンス

地域のビジョン

社会全体のビジョン



デジタル環境が前提となる**これからの社会**では、
政府、行政という存在は、遠くにある批判や監視すべき対象から、
私達自身と繋がり協調し上手に使う道具となり得ます。

そのためには、ひとりひとりがデータやファクトに基づく
思考と意思表示を行い『信頼/TRUST』の構築に向け、
相互参照を行うコミュニケーション＝国民的議論、そして
地域を挙げた議論が不可欠です。

『**ポリネコ！**』は、
国民的議論、地域を挙げた議論を可能にする
唯一のコミュニケーション方法です。



岩田崇
株式会社 ハンマーバード / takashi@hammerbird.jp
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員



<https://bit.ly/3xjN508>



自治体向け『ポリネコ！』の概要書（pdf）は
右のリンクからご確認いただけます。→

・『ポリネコ！』なら、できる持続可能性の確立&自治体DX

- 1** GIGAスクール構想
「令和の日本型教育」に
対応する地域の教育環境
を実現できる
- 2** スーパーシティや
スマートシティに
不可欠な
『新しい住民参加』を
実現できる
- 3** 関係住民や若年層、
子育て世代など対象
ごとの『声』を
継続的に聞き
分析できる
- 4** どこに人々の誤解や認知
不足があるかを把握して
改善につなげる
『新しい広報・公聴』が
できる
- 5** 行政内部の情報&
ビジョン共有
による働き方改革を
実現できる
- 6** 住民（関係住民）-行政
-議会がひとつの
コミュニケーションで
繋がり『納得解』が
実現できる
- 7** 双方向↔かつEBPMの
コミュニケーションに
より『信頼』形成を
実現できる
- 8** 未来に向けた『投資』が
できる地域の
人々のネットワークを
実現できる

関係者用資料
Confidential

自治体DXを
広報・公聴の弱点を補完する
 「行政コミュニケーションの最適化」で
 実現する双方向参加型地域経営インフラ
 「ポリネコ！」



ポリネコ!
Political Needs Coordinator PAT

2021年6月

概要説明資料

株式会社ハンマーバード 代表
 慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
 岩田 崇

 takashi@hammerbird.jp
 東京都品川区荏原6-2-5-5F